

論文審査の要旨(甲)

申請者領域・分野 氏名	総合医療・健康科学領域 スポーツ健康科学教育研究分野 氏名 徳田 糸代
指導教授氏名	中路 重之
論文審査担当者	主 査 今泉 忠淳 副 査 福田 眞作 副 査 松原 篤
<p>(論文題目) 一般住民におけるりんごの抗動脈硬化作用に食生活が及ぼす影響 (Influence of dietary habits on the association between apple consumption and atherosclerosis risk in general population)</p>	
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>動脈硬化のリスクは適切な生活習慣により軽減できることが知られている。生活習慣の中でも、個々の食品摂取に関する研究は少ない。りんご摂取は血圧抑制作用を持つことが報告されているが、一般住民を対象として、りんごの摂取が動脈硬化の予防効果を有するかどうかについて証明した研究はほとんどない。本研究の目的は、一般住民において、りんご摂取が動脈硬化度や血圧に及ぼす影響を明らかにすることである。</p> <p>対象は、2013年岩木健康推進プロジェクトを受診した920名(男性342名、女性578名)である。病歴・服薬状況・生活習慣の聞き取り調査、血圧・脈波伝播速度(brachial-ankle Pulse Wave Velocity; baPWV)の測定、血中LDLコレステロール・HDLコレステロール濃度の測定を行った。また、簡易型自記式食事歴法質問票(brief-type self-administered diet history questionnaire; BDHQ)を用いて食事調査を行い、りんごの摂取が週一回未満の群と以上の群に分けた。BDHQより1日当たりの総摂取エネルギーを算出し、さらに、厚生労働省「日本人の食事摂取基準」(2010年版)より推定エネルギー必要量を求め、摂取カロリーが推定必要量より少ない群と多い群、および、脂質エネルギーが30%未満の群と以上の群に分けて検討した。</p> <p>その結果、推定必要量より摂取カロリーが少ない男性や、脂質エネルギー比が30%未満の男性において、りんごの摂取習慣のある群では、摂取習慣のない群に比べてbaPWVや血圧が低い傾向を示した。このことは、推定必要量より摂取カロリーが少ない男性や、脂質エネルギー比が30%未満の男性では、りんごの摂取習慣が動脈硬化の予防につながる可能性を示している。この知見は、一般住民における動脈硬化予防に対する新たな食生活習慣の改善に結びつく可能性が認められ、学位授与に値する。</p>	
公表雑誌等名	体力・栄養・免疫学雑誌 第25巻に掲載予定